

地域ケア会議 住民主体の地域づくり サロン

安芸郡府中町

住民に伝わる地域ケア会議の活用と地域活動

みどころ！

地域住民の気づきや願いを地域ケア会議のプロセスを活用しながら、意見をとりまとめ、合意形成、地域活動創出へと移行する。同時に、あらたな地域ニーズの把握と解決策へと向かう流れを、町全体で下支えする地域包括ケア体制を整備する、人口が密集するコンパクトな地域ならではの取り組み。

地域概要

実施主体

府中町データ

総人口	51,923 人（高齢化率）
65 歳以上人口	11,735 人（22.6%）
75 歳以上人口	5,331 人（10.3%）

府中町地域包括支援センター
府中町社会福祉協議会
府中町高齢介護課
民生児童委員、町内会役員

（平成 27 年 4 月 1 日現在）

広島県の南西部に位置し、四方を広島市に囲まれる町。低地部は市街化され、大型ショッピングセンターがあり、広島市内繁華街へのアクセスも便利。また、丘陵部にかけて住宅団地が形成され、大小 10 余りの住宅団地があり、それぞれに特性や課題が異なる背景がある。人口 5 万人を超え、可住地面積が狭いため人口密度の高い府中町は、平成 26 年から全国の町村の中で人口が最多となっている。自動車メーカーマツダの本社が所在するほか、以前はキリンビール広島工場があり、企業城下町であるため、主要産業は、自動車会社のマツダ本社及び、その関連会社。公共交通機関は、路線バス、ＪＲが整備され、山陽道、広島高速などの拠点でもあり交通至便な地域のため、町民の生活行動範囲は広範に及ぶ。

地域包括支援センターの活動紹介

【体制】

社会福祉法人府中町社会福祉協議会へ委託。センター長（主任介護支援専門員）、保健師 3 人、主任介護支援専門員 1 人、社会福祉士 3 人、介護支援専門員 1 人、事務員 1 人からなる。人口約 5 万人をカバーする地域包括支援センターが 1 か所であるため、2 か所分の人員配置があり、個別訪問活動には 2 人体制が可能となるなど良好なフットワークが整備できている。

【活動】

行政と日常的に情報交換を行い、各事業に参加するなど連携体制を密に行っている。地域包括支援センターは町社会福祉協議会が母体であり、事務所が同じ場所にあることから、社会福祉協議会の地域福祉活動との連動と、個別相談の迅速な対応が可能。

「高齢者見守りネットワーク・介護サービス事業者連絡会」の合同研修会には役場、民生委員、弁護士、警察、消防、歯科医師が参加し、多職種連携を進めている。



取組の背景と課題認識

現在、比較的ゆるやかに高齢化が進展し若い世代の多い本町ではあるが、2025年の後期高齢者数が1.7倍と大幅に増加すると見込まれており、急激な高齢化への準備が懸念される。そこで、地域包括支援センターは、豊富にある社会資源の把握や多様な医療介護関係機関の現状、地域特性の分析と生活課題の把握を踏まえて、今後想定されるあらゆる生活課題に即応できる医療介護連携体制の整備が急務であると考えた。

取組の内容

府中町地域包括支援センターが推進する地域包括ケア取り組みの流れ

【1】地域診断の実施

町内全域を地域踏査とデータ分析を実施し、現状を把握する。

実際に地域包括支援センター職員が自転車を使って現地を走行し、住民目線での地域の現状を把握する活動を行った。圏域が狭く事務所から自転車でも十分行き来のできる範囲にあるメリットを活かしたことによって、住民の生活実態や細かな地域の実情など生きた情報を把握することができた。同時に、町から人口や年齢分布などのデータ提供を得て、可視化できる資料を作成した。

【2】分析結果のフィードバック

地域診断を行った結果を一覧にまとめたものを地域へフィードバックを行う。各町内会単位に地域ケア会議を開催。町内会長、民生児童委員等へ説明を行い、ワークショップでは地域活動者からの意見を収集した。収集した意見は、主に①地域の強み～今までであった地域課題に対して地域住民がどのように対応してきたのか（経験）、②地域にある人的・物的資源（リソース）、③地域住民の要望と可能性など、地域独自の強みを中心に意見を出してもらう。

【3】地域活動の企画・支援

地域の現状と課題を共通認識するプロセスを経て、今後の地域生活に必要な住民発地域活動の新規立ち上げをめざして、企画づくり、運営支援を行う。

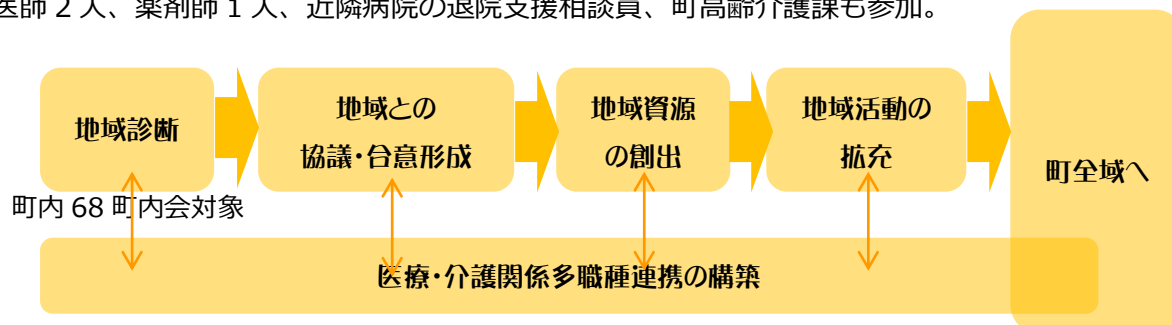
【4】全体の推進状況の進捗確認と共有、関係機関の連携づくり

地域活動の創出～活動の後方支援をしながら、個別課題の把握と早期対応をめざして、医療福祉関係機関の連携をとりながら在宅生活における生活課題に対応できるしくみづくりを行う。

【5】医療・介護の連携

平成 26 年 12 月 医療機関と介護支援専門員の情報交換会開催。10 か所の病院の退院支援室や地域連携室の担当者（医療ソーシャルワーカー・看護師など）が参加。退院後の支援や在宅医療に関わる専門職との事例検討会等の紹介もあり、退院時や退院後の在宅生活支援の際に連絡がスムーズに行えるような関係づくりが進んだ。

平成 27 年 3 月 かかりつけ医・歯科医と介護支援専門員との交流の場「ワールド・カフェ in 府中町」開催。52 名が参加した。地域包括支援センターと介護支援専門員の他に、町内の医師 9 人、歯科医師 2 人、薬剤師 1 人、近隣病院の退院支援相談員、町高齢介護課も参加。



緑ヶ丘町内会の事例 ～地域ケア会議の開催からサロン立ち上げへ

町内会長・副会長、民生児童委員（２人）、役場高齢者福祉係、町社会福祉協議会、地域包括支援センター

以前から… 緑ヶ丘町内会で高齢者が孤独死する人がおり、町内会長としては、地域で、サロンをつくりたい、一人暮らし高齢者の連絡網を作りたいという思いがあり、地域包括支援センターへ相談があった。

議題「緑ヶ丘、こんないい所があるよ。これからこうなったらもっと住みやすくなるよ」

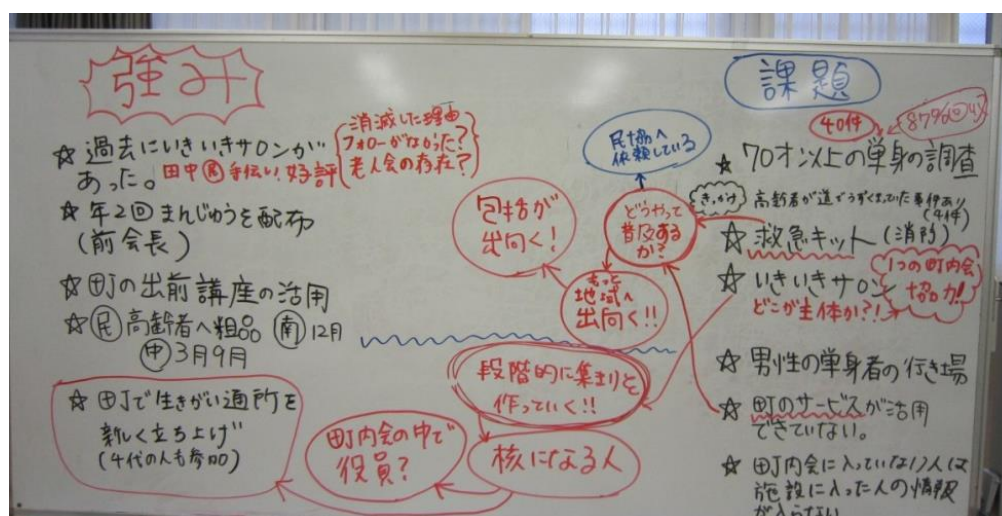
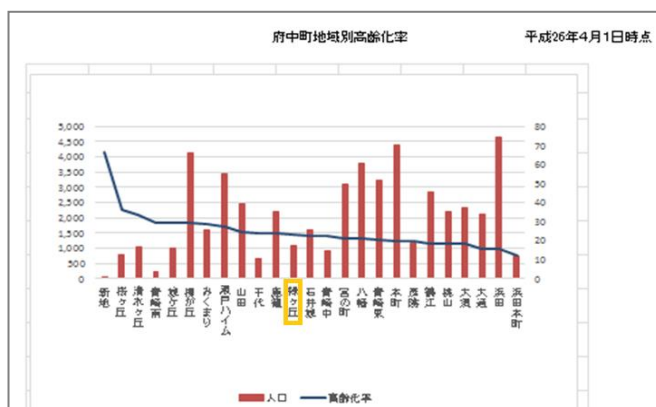
日常的に地域活動に取り組む町内会役員や民生児童委員らとともに地域課題と対策についての意識統一ができた。取組として、以前地域で活動していた「いきいきサロン」が現在休止していることから、再開希望があり、地域ケア会議を好機ととらえ、あらためて「いきいきサロン」の必要性や手法等についての話し合いを行った。

緑ヶ丘団地開発年度:昭和 34 年

緑ヶ丘地区人口:1,053 人(平成 25 年 10 月)

〃 高齢化率:23.2%(平成 25 年 10 月)

団地内に新築マンション建設によって、高齢化に歯止めがかかる。戸建ては新築物件も多いが、ほとんどが団地開発時期に建築され、近隣に勤務していた男性が定年を迎え地域デビューに関心が高まりつつある。



地域ケア会議で提示した資料
可視化した資料を活用して地域の現状と
今後の課題を説明するために活用

平成 25 年 12 月町内会役員会「福祉研修会」開催

地域包括支援センター・府中町社会福祉協議会が出席して、地域包括支援センターの役割・いきいきサロンの内容や助成金について説明した。

平成 26 年 2 月 第 2 回地域ケア会議

議題「緑ヶ丘いきいきサロンの復活をめざして！！」

「いきいきサロン」の開設に向けて打ち合わせを行う。2 か月後の平成 26 年 4 月に、「緑ヶ丘いきいきサロン」を立ち上げ準備を開始。府中町地域包括支援センターと府中町社会福祉協議会が立ち上げに向け支援を行った。



平成 26 年 4 月「いきいきサロン緑ヶ丘」開設

月 1 回、地域にある公園に隣接する集会所で開催。高齢者に限らず誰でも参加できる。「いきいきサロン」は世話人（ボランティア）が運営しており、一人で来られない人は迎えに行くなど互助活動も行っている。活動内容は、食事や介護予防体操指導（町から派遣）などを行うほか、季節行事として敬老会、夏祭りなども開催する。

サロンを開催するなかで様々な地域の声が集まる

「いきいきサロン」開催場所である集会所の入口の段差があり、出入りが困難であることから、町内会の積立金を活用し、出入口のバリアフリー化工事を行った。また、サロンの開催情報を広く地域住民へ伝えるために、町内会の掲示板を県コミュニティ助成事業を活用して設置することができた。

今後の計画

住民活動の実績とマンパワーの獲得が順調にすすむことで、住民が課題を認識し、町内会で 70 歳以上の高齢単身者への声かけ、巡回など、地域活動がスタートした。今後、定年退職後の男性を中心にボランティアグループを組織し、水道の水漏れ修理、ペンキ塗り、草取りなどを行う計画である。

取組の成果・今後の課題と展望

◆成果◆

ていねいに地域性の違いや地域の強みを把握し、そこに焦点をあてながら地域リーダーの活動実態に対応した、地域活動創出のプロセスを確立できた。住民力を促進する関わりが継続実施しはじめることで活動人材が育ち、同時に地域課題を発見し、それに対応した活動内容の創意工夫が展開されるという相乗効果が生まれた。これらによって、住民レベルから行政レベルにいたる地域ケア会議を基軸にした、地域包括ケア体制整備までのフローを形成する方向性が定まった。

◆課題と展望◆

立ち上げた「いきいきサロン」や地域活動の継続支援を、町社会福祉協議会と役割分担をしていく必要がある。そのために、地域活動者の育成確保、活動内容に関連した学習会などの開催によって、高齢者だけでなく子育て中の世代なども含めて、すべての地域住民への発信をしていく必要がある。あわせて、そのほかの社会資源の把握とともに医療介護連携を整え、小さな生活課題を見落とさずすぐに対応ができる体制を整備していくことで、町独自の地域ケア会議を中心としたケア体制を構築していきたい。

取組のポイント、機能強化ポイント

地域住民の主体性を引き出すためにわかりやすく伝える工夫として、地域診断の結果を可視化する資料を活用した。現状と今後、このままだとどうなるのかといった事実を伝えることが自分ごととして考えるきっかけとなった。また、人口密集する地域ならではのフットワークと、単町運営、町社会福祉協議会との役割分担を活かして、地域ケア会議を基軸にした地域包括ケアの構築方法を描くことができた。各地であたりまえにある「いきいきサロン」のたちあげプロセスに、地域包括支援センターが関わることの意味をあらためて確認することができる。

連絡先	府中町地域包括支援センター	082-285-7290 センター長 倉本久美
	広島県地域包括ケア推進センター	082-254-1166
	広島県健康福祉局地域包括ケア・高齢者支援課	082-513-3198